

日本放射線腫瘍学研究機構 緩和医療委員会 会議議事録

日時：2015年11月19日 14時-15時

場所：ベイシア文化ホール 502 会議室

出席者（敬称略，順不同）：鹿間、野村、野崎、多湖、和田、高橋、内田、永倉、荒木、平安名、中村、田中、齋藤

① 進行中の臨床試験：JROSG 11-1（鹿間）

- ・ 症例登録は2015年12月31日で終了であり、再度の登録期間延長は行わない。

② 新規試験案

上部消化管止血に対する照射（鹿間）

- ・ アンケート調査では、上部消化管の出血を伴う腫瘍への治療について、幅広く多様な線量分割が選択されていた。
- ・ 出血を伴う胃癌への緩和的放射線治療の有効性を調べる探索的介入研究を行う。
- ・ より臨床の現場のニーズを反映するため、線量分割は20Gy/5回を基本とする。これに加えて予後不良例・通院困難例等で担当医の裁量で8Gy/1回を選ぶ選択肢も用意するかどうかを検討する。（全身状態不良例、化学療法併用例に幅広く対応でき、かつ有害事象の少ない線量スケジュールの開発を重視することとした）
- ・ 照射範囲はCTおよび内視鏡検査の所見をもとに病巣部に2 cm程度のマージンを設定した範囲が妥当ではないかとの意見がだされ、概ね了承が得られた。
- ・ 症例登録基準、止血の定義、再出血の定義を検討する必要がある。
- ・ 内科・外科医師に止血のための放射線治療の有用性が十分認知されていない現状があり、他科医師への働きかけも症例集積のために必要と考えられる。
- ・ 小杉先生、齋藤先生を中心にコンセプト、プロトコルの作成を進める。